第33回 福島県建築文化賞 各作品賞 講評

正賞（1作品）

はじまりの美術館（猪苗代町）

東日本大震災により甚大な被害を受けた築120年の十八間蔵が多くの人々の関わりや行動、建築の技術と創意により、アール・ブリュット（障がいを持った人などによる芸術）という新しい命が吹き込まれ再生された。

コミュニティデザイナー、設計者、町民、運営者等が一緒になって、地域コミュニティの場ともなる美術館の在り方について検討を重ね、また、古民家再生に取り組むチームにより、古材を最大限に活用し、伝統的な接木技術を生かすとともに、新たに空間を埋め込むことにより、蔵が備えていた建築の価値を損なうことなく、より質の高い空間を創り上げている。

完成後は通学時に子供たちが行き交い、また企画展やイベントが意欲的に開催されるなど、生き続ける建築となっており、地域で永く愛されてきた建築の再生のあり方の可能性を広く伝える力を持つ作品となっている。

準賞（1作品）

喜多方市役所（喜多方市）

喜多方の蔵をモチーフにしたＰＣパネルで構成される外壁は、細部に亘りディテールの検討がなされ、施工者の技術により、表情豊かで、ランドマークとなる形態を創り出している。内部はエントランスホールの吹き抜けにより、明るさと空間に広がりをもたらし、心地よい空間となっている。

喜多方三津谷地区の登り窯で復活生産された釉薬煉瓦を随所にあしらい、議場の壁には地場産の桐を使用した有孔吸音板に会津切り型の「兜柄」を引用し、木格子の天井には飯豊杉を使用するなど、地場産材や地元の伝統的な工芸デザインを駆使して地域の固有性を積極的に打ち出している点は高く評価できる。

優秀賞（3作品）

○　Angelica　Garden（会津若松市）

郊外に立地する美容室で、ガラスと木板張りの外壁で構成されるシンプルな外観が周囲の植栽とともに道路景観を高めている。

鉄骨と木の複合構造で、スレンダーな部材を露わすことによって軽快な内部空間となっている。その中に緊張感のある1階、柔和感のある2階が目的に合わせて計画され、それと相まって内庭のビオトープや植栽が開放感と透明感を際立たせ、居心地よい空間を生み出している。

○　道の駅あいづ　湯川・会津坂下（湯川村）

道の駅を中心に交流促進施設と情報発信施設が組み合わせられた施設で、設計段階から地元住民など多くの人々が参加したプロセスにより作り上げられた。完成前から体制を整えて一体的な運営を行っており、来訪者だけではなく、憩いや活動する場として広く地域に開かれ、活用されている。

道の駅は流通製材を活用した樹状トラス構造により、独特の木造空間をもち、地元会津の木材を伐採から製材・乾燥、地元の大工職人による加工・施工まで、木の建築づくりのシステムを構築して成し遂げ、そのノウハウが継承できるようにしていることは高く評価できる。

○　相馬　こどものみんなの家（相馬市）

公園の中に建つ広場のような建築である。リスや鳥をあしらい樹木をかたどった柱により支えられる天井は、カラマツ材を積層して三次元的に編み込んだ独特のもので、木のぬくもりによる優しさをもって集う子供たちを迎え入れている。

「子供たちを安心して遊ばせたい」という願いを、多くの人々や企業の支援により実現した建築であり、この場で遊んだ子供たちの記憶に残り続けることが確信される。

特別部門賞（3作品）

○ LARGE　LAB　TOWN（福島市）

住宅街の中にある衣料品販売店であり、気軽に立ち寄れる公園のような場所とすることを目的として計画されている。2つの棟から成り、その間には広場が設けられ、様々なイベントに利用されており、店舗の機能のみでなく、地域の人たちに喜ばれ、楽しめる場を創り上げている。

杉の角材を格子状に積層した架構はシンプルで力強く、街に対して存在感を示すとともに、隙間から光が漏れることにより開放感も感じさせる。シンプルな工法により新たな木造の可能性を示した設計・施工一体ならではの試みとして評価できる。

○ 有限会社　松坂屋商会（会津若松市）

会津若松市役所前メインストリートの、今後の街並み景観を向上させようとする取組である。隠れていた建物の価値を再発見し、建築主の理解を得て創造性をもって復元した工夫と努力の成果がうかがわれる。

今後の街並み景観づくりへの起点となる作品として評価できる。

○ 西会津町立西会津小学校（西会津町）

町内５校の統合小学校であり、山並みが連なる自然景観の中に建つ。地場産の杉材を積極的に活用した温かみのある内部空間、芝生化された校庭や野外教室を備えたビオトープ、生徒が雪を楽しむために工夫を凝らした小山など、学校生活を豊かにする屋外空間が生み出されている。

県内有数の豪雪地帯という厳しい自然環境に対し、３重ガラスサッシや外断熱工法の採用、木質バイオマスの熱利用など、環境への配慮が重ねられている点も評価できる。

復興賞（3作品）

○　南相馬市大町東団地・大町西団地（南相馬市）

中心市街地の閑静な住宅街に立地し、被災者にとって利便性の高い快適な住環境を提供している。高層棟と高齢者向けの低層棟から構成され、高層棟の住戸計画ではリビングバルコニーと勝手口に面するサービスバルコニーを設けるなど生活実態を考慮した計画がされている。

低層棟は玄関を向かい合わせたペアアクセス形式で住棟間に屋根付きの回廊を設けるなど、居住する高齢者同士の交流が生まれやすくするなど、コミュニティ形成に配慮していることは高く評価できる。

○　LVMH子どもアートメゾン（相馬市）

震災により心に傷を負った子供たちの心のケアを目的とする支援施設であり、中庭をはさむ楕円形のシンプルな外観デザインの中に多様な性格の場を内包している。

透明で開放感のある連続的な空間配置がなされ、円弧状の壁一杯に本棚を設置し、２階のロフトにつながる図書室、水耕栽培棚の緑が豊かな多目的研修室など、光や空間の開く方向により、特徴のある空間構成は高く評価できる。子供たちのみならず地域の人々の集まる場となって、コミュニティ形成の核となることが期待される。

○　福島県漁業協同組合連合会　地方卸売市場　小名浜魚市場（いわき市）

漁業の重要拠点が再建されたことは、復興のシンボルとして大きな意味を持つ。塩害対策として外壁にレンガを用い、長大な船を思わせる形状は日中だけでなく夜景としても存在感を示している。

平面計画においては、衛生面に配慮した機能的なゾーニングと動線計画がなされ、荷捌き施設の見学コースが設けられており、福島の復興、食の安全性を全国に発信する場となっている。

（※優秀賞、特別部門賞、復興賞については順不同）